新大工町
くんち奉賛会発行
平成２７年７月
No.－４

# 新大工町ザ・くんち

## 曳壇尻の雄姿再び　場所踏みスタート

子供たちが夏休みに入り、詩舞・曳壇尻の稽古がいよいよ本格化。曳壇尻の雄姿が7年ぶりに町内に戻ってきました。本番での奉納場所で演技を磨く場所踏みも始まり、町内は一気にくんちモードです。

曳壇尻の場所踏みは17日、待ちに待った諏訪神社で。役員らが照明機などをセットし、囃子方の子供の父母らがおしぼりやお茶の用意等をして待つ中、日没とともに曳壇尻の登場です。

ハーヨーヤーセー。

囃子に合わせて威勢の良い掛け声が、踊馬場に響きます。

この日は曳壇尻の調子を確かめるように前に、後ろに、車輪を軋ませながらの右回り1回転も勢いよく。

長坂から見守っていた役員からも「まだまだぎこちないが、これからが楽しみ」と期待の声が聞かれました。

一方、雨で延び延びになっていた詩舞の場所踏みは、20日午後から公会堂前でスタート。

小雨がぱらつく生憎の天気でしたが、役員や場所踏み支援の魚の町自治会有志の皆さん約20名に箒やスポンジで水溜りを処理して頂きました。お蔭で1時間余り、舞人らの立ち位置確認などの稽古ができました。

本番まで残り2ヵ月余り。炎暑の下、熱い稽古が続きます。

## くんち支える庭先調べ

### 庭先回りのルート作りに奮闘

くんちでお諏訪さんに心をこめて奉納した詩舞・曳壇尻を、氏子の家々に披露してまわる庭先回り。

神様から頂いた〝福のお裾分け〟であると同時に、踊町にとっては収入の3本柱の一つです。

本番3日間のうち、踊町が費やす時間の大半は庭先回りが占め、詩舞・曳壇尻合わせて、前回を大きく上回る件数をめざしています。

このためルートの入念な下調べが必要で、これを「庭先調べ」と言います。今年に入って早々、詩舞・曳壇尻各委員会の「帳面方」を中心に、地図を広げて机上でのルート検討を開始。

その後、奉賛会の担当役員が実際に想定ルートを歩き、かかった時間や現場の状況を確認する粗調べを、5月前半まで延べ10数回実施しました。

地図でルートを検討中

曳壇尻チームは、道幅や傾斜、一方通行などの制約のもとで、いかに効率よく多くの庭先を打つかということに、詩舞チームは今回初めて2班体制を採用することとし、曳壇尻と合わせて3班でカバーし合うルート作りに苦心しました。

6月段階から曳壇尻チームは、采振・根曳きの各班で、骨格ルートに基づき一軒、一軒、呈上先の名前を確認する庭先調べを行いました。

梅雨の悪天候の日も、猛暑の日も欠かさず、トレーニングでたまった疲れもなんのその、精力的に頑張りました。

詩舞チームは、2班で効率よく回るルートの詰めの協議を重ねており、役員で呈上先の調査を始めます。

庭先調べは最終9月中旬までかかりますが、チーム一同張り切っています。

## 御寄進のお願い

新大工町は今年、長崎くんち踊町の当番年にあたり、前回同様、当町伝統の演し物である詩舞と曳壇尻を無事奉納すべく、連日、稽古に励んでおります。

踊町の運営にあたっては、傘鉾や曳壇尻の飾り付けをはじめ、傘鉾持ち、シャギリ方との契約金、曳壇尻の維持補修費、出演者の衣装代、物品等の購入などに多額の費用が掛かります。

こうした費用の財源としては、長崎伝統芸能振興会からの助成金、庭先回りによる御花等を予定していますが、これらのみで財源を確保するのは難しく、各踊町とも大変苦慮しているのが実情です。

つきましては、皆様方には出費ご多端の折、誠に恐縮ですが、事情をお汲みとりいただきまして、応分の御寄進を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

新大工町くんち奉賛会長
井上　正道

## 曳壇尻の無事奉納祈願し清祓い

新大工町くんち奉賛会は、曳壇尻の安全と奉納の無事を祈願するため、7月5日午前10時から曳壇尻を格納している八幡町公民館で、清祓いを斎行しました。

当日は奉賛会役員、顧問、白采、添采、根曳、囃子方保護者のほか、八幡町くんち奉賛会の橋本会長、地元金融機関の代表ら総勢約50人が参加。諏訪神社（菊池権禰宜）からお祓いを受けました。＝**写真**。斎行」の斎には「心身を清浄に保ち、慎むこと」の意味があります。

清祓いの後に始まる場所踏みで事故や怪我なく鍛錬し、諏訪の踊馬場で迎える晴れの本番では最高の奉納が出来るよう、根曳衆、囃子方への熱いエールをお願いいたします。

## 「ま一度感動を」

新大工町とは平成六年から、くんちに参加してのご縁で今回で四回目の奉納となります。詩舞は吟詠と舞が一体となって繰り広げられますが、気持ちを新たに稽古に取り組んでおります。町内の方々とも、くんちを通じて親しくお付き合いをさせて頂いています。

詩舞をご覧になって詩吟に興味を持たれた方は、詩吟教室をのぞいてみてください。長崎のくんちを盛り上げ長く継承していくため、曳壇尻、詩舞、詩吟、一体となって新大工町の繁栄を祈願しています。

**鶴洲流長崎吟詠会会長　松永信洲**

30日の夜。詩舞チームは諏訪神社の踊馬場で、2度目の場所踏みを行いました。＝**写真**

舞人たちは舞扇を手にして、「祝賀の詞」坂本竜馬を思う」「天の原」の吟詠を背に、本番さながらの稽古に励みました。

役員らから「舞がずいぶん良くなった。立ち位置に気を配り、扇に慣れると、もっともっと良くなる」などの声が寄せられました。

場所踏み日程表

| | | | 諏訪神社 | |
|---|---|---|---|---|
| 月 | 日 | 曜日 | | 時間 |
| 8月 | 1日 | （土） | 曳壇尻 | 19:00～ |
| | 2日 | （日） | | |
| | 3日 | （月） | （歴文館）曳壇尻 | 19:00～ |
| | 3日 | （月） | （公会堂）詩　舞 | 19:00～ |
| | 4日 | （火） | 曳壇尻 | 19:00～ |
| | 5日 | （水） | 曳壇尻 | 19:00～ |
| | 6日 | （木） | 曳壇尻 | 19:00～ |
| | 7日 | （金） | | |
| | 8日 | （土） | | |
| | 9日 | （日） | （公会堂）詩　舞 | 15:00～ |
| | 10日 | （月） | （中央公園）曳壇尻 | 19:00～ |
| | 11日 | （火） | 詩　舞 | 19:00～ |
| | 12日 | （水） | 曳壇尻 | 19:00～ |
| | 13日 | （木） | | |
| | 14日 | （金） | | |
| | 15日 | （土） | | |
| | 16日 | （日） | | |

## 新聞記事に見る新大工町のくんち（中）

# 曳壇尻」について

**奉賛会顧問　山口康平**

今回は「曳壇尻」に関する記事から振り返ってみましょう。新大工町の演し物は川船だったですかね」と言われることが多く、非常に残念に思います。

### ミヨシのない川船？

新大工町の曳壇尻は、明治三十四年十月十一日付の鎮西日報で「挽臺車は此町のみ」と報じられているのに、明治四十一年十月二日付の鎮西日報と、同年十月六日付の東洋日の出新聞で「川船」と報道されています。

さらに、昭和二十六年九月二十四日付の長崎日日新聞「長崎お宮日踊町めぐり」に至っては「曳壇尻とはミヨシのない船を中心にした行列で、俗に〈サキのない川船である。・・」と明らかに誤った紹介をされています。

明治四十一年の川船報道と併せ、挽臺車に関する新聞記者の勉強不足による誤りだと推測します。

### 百十四年もの歴史

現時点では「曳壇尻」が奉納された記録は明治三十四年であり、以来百十四年にわたって脈々と奉納を続けているのは新大工町だけです。

以前の曳壇尻は大工の技術を誇った釘一本使わない白木造りでしたが、昭和六十一年に大型の漆塗りの曳壇尻が新調されました。

### 春日大社とのご縁も

屋根飾りは明治四十一年十月三日付の長崎新聞で、屋根は紅葉に松を配し鳥居を見せて牝牡鹿を遊ばせたるもの春日社頭に因めるものの由」と報じられており、当時そのままに飾られています。

大正五年十月九日付の東洋日の出新聞は「二十四名の根曳連は紅葉模様入り揃いの浴衣に捻り鉢巻きで生粋な處を見せ勇ましき壇尻の廻轉二回」と。衣装に紅葉の模様が入ったという記事もこれが初めてです。

### 鉢巻き投げも元祖？

明治三十四年十月十一日付の鎮西日報では「挽臺車は此町のみにて殊に壮快に見えたり。鉢巻きを其儘取りて投げ、長坂の気に入る」と好意的に報道されました。

しかし同年十月十三日付の鎮西日報においては諏訪神社踊（後日の風景）の中で、挽台車連の鉢巻き投げは悪やら良いやら」と問題が提起されています。察するに鉢巻き投げを行ったのも新大工町が元祖かも。

今年も、「曳壇尻」を長崎市民の脳裏にしっかり焼き付ける奉納を期待しています。

**がんばれ曳壇尻！**